

## 2007 年度国際政治経済論研究 2 (シラバス詳細)

下川雅嗣

<http://pweb2.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/> (上智大学内からの接続)

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/> (学外からの接続)

### [ 授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等 ]

国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。修士論文の中間報告等学生の研究報告及びそれを基にした討論を中心とする(今年度は4人または5人の予定)。またそれ以外の日は、貧困・開発・国際経済・経済発展論関連の共通の書籍及び論文を輪読、議論し深めていくかikitaiと思っている。最終的には授業の参加者と相談の上決定する(が、現在の思惑としては共通の書籍がよいのではないかと思っている)。学部開講の国際経済学1,2及び国際政治経済論1,2を併せて受講することが勧められる。

### [ 評価方法 ]

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い、課題レポート等で総合的に評価する予定。

### [ 内容 ]

国際政治経済諸問題及び貧困に関するテーマにおいて修士論文執筆者及び他に自分の研究を進めている人がいれば、その院生の報告を優先する。その合間を縫って、次のA案かB案を初回の授業の際に受講生の顔ぶれを見て、また希望を聞きながら決める。

**A 案：テーマとして貧富の格差の問題を扱いたい。本を一冊読んだ上で、関連する論文等を時間のゆるす限り読む。**

Joseph Stiglitz (2006) *Making Globalization Work*, W.W.Norton & Company, Inc.

(楡井浩一訳 (2006) 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店)

一回に2章進める?上記の本が終わった後に読む論文については追ってお知らせする。

または、論文ではなく、春学期の応用編的に、下記の本から幾つかのトピックスを抜粋して読んでもよい(この本の場合は、経済学の基礎についての理解の深まりにも役に立つ)。矢野誠編著 (2007), 『法と経済学：市場の質と日本経済』東京大学出版会

**B 案：開発経済学に関する日本語のテキストを読む。**

速水 佑次郎 (2000) 『開発経済学—諸国民の貧困と富』創文社。

#### < 予定 >

10月4日:イントロダクション。内容決定。  
10月11日:修士論文中間報告2人  
10月18日:修士論文・他研究中間報告2人  
10月25日:修士論文・他研究中間報告+書籍・論文  
11月8日:書籍・論文  
11月15日:書籍・論文  
11月22日:修士論文中間報告?  
11月29日:修士論文中間報告?  
12月6日:書籍・論文  
12月13日:書籍・論文。  
12月20日:修士論文中間報告?  
1月10日:修士論文中間報告?  
1月17日:書籍・論文?  
1月24日:??  
1月19日が修士論文提出期限